大築城跡見学のポイント

◎　縄張り（構造）は戦国期の山城（やまじろ）

◎　明快な指向性（城は東を向き、南にも配慮）

◎　大規模な堀切、技巧的な虎口と導線、小規模な石積み

◎　同時代の文書には登場しない

◎　後世の記録

新編武蔵風土記稿→「上田安独斎の城跡なり…」

慈光寺実録→「ある時、松山城主上田安独斎が平村大津久山出陣、慈光寺を焼き討ち　云々」（天文年間　注）

高山不動記録→吾那憲光（左衛門尉か？）の築城

石川忠総留書（注）→「吾那蜆城」、小田原北条氏による川越城攻撃の一環で遠山氏が入城、享禄２年(１５２９)

周辺地名「硯水」の字画と音韻類似に注目

※　まとめ

保存状態良好で縄張りも技巧的

慈光寺攻めとの関連　天文十九年以前（1550）

交通との関連　秩父へ抜ける尾根道を押さえている。

越生（氏）領域との境界　太田道真、越生入部に象徴されるように関東山の辺の道（現八高線沿線ルート）が戦国前期に重要である説

注　天文年間→天文元年（1532）～天文二十四年（1555）

注　石川忠総留書→江戸前期の大名、大久保忠隣三男である忠総の留め書き。
天正 10（1582）年～慶安 3（1651）年